

2025

1 年生 シラバス

令和 7 年度 上尾市立瓦葺中学校

AGEO MUNICIPAL KAWARABUKI JUNIOR HIGH SCHOOL

国語【第1学年】

1 国語の学習で目指すこと（到達目標）

言葉を正確に受け止める力と、自分の思いや気持ちを的確に表現する力をつけることを目指している。同時に、読書に親しむ態度を育むことや、辞書を活用して語彙力を豊かにすることにも取り組んでいる。さらに、文字を正しく丁寧に書くことと、漢字の読み書きがきちんとできることを重点的に指導している。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書「国語1」（光村図書） ○副教材「单元別 漢字ノート1」 「よくわかる国語の学習1」 「国語便覧」	持ち物等	○教科書 ○副教材 ○国語専用のノート（各自で用意する） ○紙ファイル（教材費で購入） ○書写の道具（小学校で使用した物でよい）
学習の進め方	・ 予習をして授業に臨む。（あらかじめ教科書を音読しておくだけでも効果がある） ・ 授業に積極的に参加する。（進んで発言する／工夫したノートを作る／質問をしてみる） ・ 授業の後は復習する。（家庭学習の習慣を身につけるように努める） ※ 古典に親しむことをねらいとして、「百人一首」の学習を取り入れている。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	单元名 1 学びをひらく	知識・技能	・ 漢字の読み書きができる。	・ 定期テスト
5	2 新しい視点で		・ 語句、漢字を的確に使える。	・ 漢検対策テスト
6	○書写（硬筆）		・ 文法について理解している。	・ 漢字小テスト
7	3 言葉に立ち止まる		・ 文字を丁寧に正しく書ける。	・ 古典の暗唱
8	○夏休みの宿題（作文等）	思考・判断・表現	・ 古典をすらすらと読める。	・ 作品（書写）
9	4 心の動き		・ 古典の知識を身につけている。	
10	5 筋道を立てて		・ 作者等について知識がある。	
11	6 いにしへの心にふれる			
12	7 価値を見いだす ○書写（書き初め）	主体的に学習に取り組む態度	・ 情報を的確に聞き取れる。	・ 定期テスト
1	8 自分を見つめる		・ 目的や場面に応じた発言、発表ができる。	・ 観察
2	○百人一首		・ 叙述に沿って文章を読み取り正しく受け止められる。	・ 作品（作文）
3	○1年間のまとめ		・ 目的や相手に応じてわかりやすい文章を書ける。	・ レポート ・ ワークシート
			・ 意欲的に取り組んでいる	・ 漢字小テスト
			・ 学習課題に沿って、粘り強く努力している。	・ 国語ファイル
			・ これまで学習したことを、生かそうとしている。	・ 観察
			・ 周囲と協調し、言葉を伝え合おうとしている。	・ ノート

社会【第1学年】

1 社会の学習で目指すこと（到達目標）

広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的
国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 新しい社会 歴史（東京書籍） 新しい社会 地理（東京書籍） 中学社会科地図（帝国書院） ○副教材 歴史資料集（浜島書店） ワーク（歴史・地理）	持ち物等	○教科書 ○ノート ○資料集 ○地図帳 ○ファイル ○筆記用具 ○のり
学習の進め方	○単元ごとに設定された学習課題を意識し、課題解決に対して主体的に取り組む。 ○疑問に思うことや資料や図、発問に対して「考える」という時間を大切に、自分の考えを持って学習内容に臨む。 ○少人数班やペアワーク等の活動を通して、多面的・多角的視点から捉える。 ○授業の終わりにポートフォリオを使用し、自分の言葉で授業を振り返る。 ○ワークを活用し、復習することで定着をはかる。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準	評価方法
4	地 世界のすがた	知識・技能	・定期テスト ・小テスト ・ノート ・ワークシート
5	地 日本のすがた		
6	地 世界各地の人々の生活と環境		
6	歴 歴史の流れをとらえよう		
7	歴 古代までの日本 （文明と宗教のおこり）	思考・判断・表現	・定期テスト ・ノート ・ふりかえりシート ・ワークシート
7	★1 学期期末テスト		
9	歴 古代までの日本 （旧石器時代～古墳時代）		
9	地 世界の諸地域 （アジア州、ヨーロッパ州）		
10	★2 学期中間テスト	主体的に学習に取り組む態度	・ペーパーテスト ・ノート ・ワークシート ・ふりかえりシート
10	地 世界の諸地域 （アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州）		
11	★2 学期期末テスト		
12	歴 古代までの日本 （飛鳥時代～平安時代）		
1	歴 中世の日本 （平安時代末～鎌倉時代中期）		
2	★学年末テスト		
3	（鎌倉時代末～室町時代）		

数学【第1学年】

1 数学の学習で目指すこと（到達目標）

- 文字を用いて数量の関係や法則などを考察する力、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、データの分析に着目しその傾向を比較して読み取り判断する力を身に付ける。
- 数学的な活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうする態度、問題解決の過程を振り返って検討・改善しようとする態度を身に付ける。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「未来へ広がる数学1」（啓林館） ○副教材 「未来へ広がる数学問題集（啓林館）」	持ち物等	○教科書 ○数学専用のノート ○ファイル ○学校で配布した問題集 ○三角定規セット ○コンパス ※これ以外は授業の前日までに連絡します。
学習の進め方	○单元ごとに、学習内容の見通し持ち、本時の学習内容を確認する。 ○数量の関係や法則について自分なりの考えを持ち、内容を理解した上で使いこなせるように演習する。 ○自分の意見を積極的に発言する。友達や先生の意見を聞いてさらに自分の考えを整理し、深める ○ワークを活用し、復習することで定着をはかる。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月		学習活動	評価規準		評価方法
4	5	1章 正の数・負の数 1節 正の数・負の数 2節 正の数・負の数の計算	知識・技能	○数量や図形などに関する基礎的・基本的な概念や原理を理解している。 ○事象と数学化したり、数学的に解釈・表現できる。 ○数学的な問題解決に必要な知識を持っている。	・定期テスト ・観察 ・実技テスト ・作品 ・レポート ・ワークシート
6	7	3節 正の数・負の数の利用 2章 文字の式 1節 文字を使った式			
8	9	2節 文字式の計算 3節 文字式の利用			
10	11	3章 方程式 1節 方程式 2節 方程式の利用	思考・判断・表現	○日常の事象を数理的に捉え、数学を活用して論理的に考察することができる。 ○既習内容を基にして、数量や図形の性質を見だし、統合的・発展的に考察することができる。 ○数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力	・定期テスト ・観察 ・作品 ・レポート ・ワークシート
12	1	4章 変化と対応 1節 関数 2節 比例 3節 反比例			
2	3	4節 比例、反比例の利用 5章 平面図形 1節 直線と図形 2節 移動と作図			
3	4	3節 移動と作図の利用 4節 円とおうぎ形 6章 空間図形 1節 立体と空間図形 2節 立体の体積と表面積 3節 空間図形の利用	主体的に学習に取り組む態度	○数学的に考えることのよさ、数学的な処理のよさ、数学の実用性などを実感し、様々な事象の考察や問題の解決に数学を活用しようとする。 ○問題解決などにおいて、粘り強く考え、その過程を振り返り、考察を深めたり評価・改善したりする態度 ○多様な考え方を認め、よりよく問題解決をする態度	・観察 ・レポート ・ワークシート
		7章 データの活用 1節 ヒストグラムと相対度数 2節 データにもとづく確率			
		1年間の復習・学習内容の活用			

理科【第1学年】

1 理科の学習で目指すこと（到達目標）

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を身に付ける

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 自然の探究 中学理科1(教育出版) ○副教材 毎日の復習 理科1年（正進社）	持ち物等	○教科書 ○ノート ○ファイル ○資料集 ○ワーク
学習の進め方	○单元ごとに、学習内容の本質についての「学習前の考え」を持つ。 ・「学習後の考え」を整理してまとめ、学習前と後での考え方のちがいをとらえる。 ○疑問に思うこと、「考える」という時間を大切にし、自分の考えを持って学習内容に臨む。 ・授業の中でメモをとりながら、その授業で一番大切なことは何だったかをとらえられるようにする。 ○適宜実験を行い、自分の目で確かめる。 ・積極的に授業に参加し、実験や観察では注意事項に気をつけ、安全に取り組む。 ○ワークを活用し、復習することで定着をはかる。 ・ワークを授業の進度に合わせてタイムリーに解き、定期テスト前に再度解くようにする。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	いろいろな生物とその共通点 1章 生物の観察と分類	知識・技能	事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	・定期テスト ・レポート ・技能テスト ・小テスト
5	2章 植物の体の共通点と相違点 3章 動物の体の共通点と相違点			
6	身のまわりの物質			
7	1章 いろいろな物質とその見分け方 2章 気体の性質	思考・判断・表現	事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	・ポートフォリオ ・定期テスト ・レポート
8	3章 水溶液の性質			
9	4章 物質の状態変化			
10	大地の成り立ちと変化 序章 身近にある地形・地層・岩石を	主体的に学習に取り組む態度	事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・ポートフォリオ ・授業態度 ・レポート ・テスト直し
11	観察しよう 1章 大地の歴史と地層			
12	2章 火山活動と火成岩 3章 地震と大地の変化			
1	4章 大地の躍動と恵み			
2	光・音・力 1章 光の性質			
3	2章 音の性質 3章 力のはたらき			

音楽【第1学年】

1 音楽の学習で目指すこと（到達目標）

- ・歌詞の内容や曲想を感じとり、曲種に応じた発声で、言葉の特性を生かして表現する能力を身に付ける。
- ・基礎的な表現の技能を身に付ける。
- ・音楽の特徴となる背景の文化・歴史と関連付けて、鑑賞する能力を身に付けることができる。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「中学生の音楽1、器楽」 (教育芸術社) ○コーラスフェスティバル (正進社)	持ち物等	○教科書 ○音楽ファイル ○コーラスフェスティバル ○アルトリコーダー ○筆記用具
学習の進め方	・課題（本時のねらい）の把握 ・説明（教科書やICTを使用し、活動内容を理解する） ・課題解決の取り組み（グループ活動、技能練習） ・振り返り、まとめ（自己評価）		

3 授業計画及び評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	・ガイダンス ・校歌 ・夏の日の贈りもの ・春-第1楽章- ・エーデルワイス ・合唱祭に向けた取り組み - 合唱	知識・技能	・歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。 ・楽器を演奏するために必要な楽器の特性（知識）や技能を身に付けている。	・活動時観察 ・振り返りシート ・相互評価 ・実技テスト ・単元テスト
5		思考・判断・表現	・歌詞の意味を考え、意味に合った歌い方ができる。 ・音楽を通して感じたことを音楽を形づくっている要素等を使って根拠をもって説明したり演奏に繋げたりすることができる。	
6		主体的に学習に取り組む態度	・音楽活動を楽しみながら仲間と協力して意見や考えを述べて学習活動に取り組もうとしている。 ・振り返りシートで本時の目標と自分を照らし合わせて学習内容を振り返ることができる。	
7				
8				
9				
10				
11				
12				
1				
2				
3	・卒業式に向けた取り組み			

美術【第1学年】

1 美術の学習で目指すこと（到達目標）

- ・造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。
- ・主題を生み出し豊かに発想して構想を練り、美術や美術文化に対する感じ方を深めることができる。
- ・創造活動の喜びを味わい、主体的に学習活動に取り組むことができる。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「美術1」（日本文教出版） ○副教材 「美術資料」（秀学社）	持ち物等	○教科書 ○スケッチブック ○筆記用具	○資料集 ○アクリル絵の具
学習の進め方	・課題（本時の目標）の把握。 ・説明（教科書や板書、参考作品、大型モニター等を見ながら）を受け、活動内容を理解する。 ・取組（作品制作・鑑賞活動・小グループでの話し合い活動） ・自己の学習の振り返り。（成果と課題等を把握） ・後片付け			

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	・オリエンテーション	知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。	・行動観察 ・作品 ・ワークシート ・実技テスト（定期テスト）
5	・生き物いきいき		・表現方法を創意工夫し、創造的に表している。	
6	・アクリル絵の具を使ってみよう			
7		思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きについて考えている。	・提出物 ・アイデアスケッチ ・鑑賞プリント ・メッセージカード ・忘れ物
8	・風景画（夏休みの宿題）		・主題を生み出し豊かに発想し構想を練っている。	
9	・楽しい形を発見しよう		・美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めている。	
10	～ペーパーウエイト～	主体的に学習に取り組む態度	・美術の創作活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。	
11	・レタリングをしよう			
12	・デザインが面白い ～屋内に飾るプレートをつくろう～			
1				
2				
3	・金属の彫刻（鑑賞を中心に） ・ゲルニカを味わう ・モダンテクニックに挑戦			

保健体育【第1学年】

1 保健体育の学習で目指すこと（到達目標）

- ・運動の合理的な実践を通して運動の楽しさや喜びを味わう。
- ・運動を適切に行うことにより、運動や体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付ける。
- ・運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて考え判断するとともに、考えたことを他者に伝える力を養う。
- ・運動における競争や協働の経験を通して公正・協力・責任・共生の意欲を育てると共に健康安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を育てる。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○ステップアップ中学体育（大修館） ○中学保健体育（大修館）	持ち物等	・教科書 ・ファイル ・筆記用具
学習の進め方	・チャイムが鳴ったとき、活動場所に集合・整列完了。 ・健康観察、準備運動（みんなに聞こえる声で号令をかけ、準備運動・ランニングなどをする） ・課題（本時のねらい）の把握、よい動きの理解 ・課題解決（ねらい達成）、よい動きの獲得のために活動（仲間と教え合い、協力して活動すること） ・自己や仲間の学習の振り返り（成果と課題等を把握し、次の目標をもつ） ※ケガで運動ができない場合は、できること（教え合い、アドバイスの援助、仲間の振り返り）に取り組む。		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4	・ 体づくり運動	知識・技能	・ 運動の特性や技の名称等を理解している。	・ 活動時観察 ・ 学習カード ・ 相互評価 ・ 実技テスト ・ 単元テスト
5	・ 新体力テスト ・ 陸上競技（走り幅跳び） ・ 器械運動（マット運動）		・ 各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	
6	・ 保健（心身の機能の発達と心の健康）		・ 保健や体育理論の内容について理解できている。	
7	・ 水泳（クロール）	思考・判断・表現	・ 単元の特性やねらいを理解し、自己や仲間の課題を見つけ、合理的に解決できるように課題や目的に応じて工夫している。	
9	・ ダンス（創作ダンス）		・ 自己や仲間の課題や解決に向けて、自己の考えたことを他者に伝えている。	
10	・ 球技「ネット型」(卓球)			
11	・ 球技「ベースボール型」(ソフトボール) ・ 保健（心身の機能の発達と心の健康）	主体的に学習に取り組む態度	・ 各運動に対して積極的に取り組もうとしている。	
12	（健康な生活と疾病の予防）		・ 準備や片付け、学習上の仕事分担などの自己の役割を果たす。（責任）	
	・ 陸上競技（長距離走） ・ 体育理論（運動やスポーツの多様性）		・ 仲間の学習を援助（教え合い）しようとしている。（協力）	
1	・ 武道（柔道）		・ ルールやマナーを守ろうとしている。（公正）	
2	・ 球技「ネット型」(バレーボール)		・ 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。（共生）	
3	・ 保健（健康な生活と疾病の予防）		・ 健康、安全に気を配っている。	

技術・家庭〔技術分野〕【第1学年】

1 技術・家庭〔技術分野〕の学習で目指すこと（到達目標）

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「技術・家庭〔技術分野〕」（開隆堂）	持ち物等	○教科書 ○ハンドノート ○プリント ○クロームブック ○筆記用具 ○体育着・ジャージ ○LED ライト基本モジュール ○マイクロビット ○その他必要なもの
学習の進め方	<授業スタイル> 『説明・解説を聞く』『考えてみる（調べてみる・話し合ってみる）』『体験してみる（設計・製作してみる）』の時間を明確に分け展開していく。提出物は原則クラスルームの課題提出で行う。 <場 所> 技術室		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
10 10~12	「ガイダンス」 「エネルギー変換の技術」 - 生活や社会とエネルギー変換の技術 - 電気の供給と利用 - 運動の利用 - エネルギー変換の技術による問題解決	知識・技能	生活や社会で利用されている技術について理解しているとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	- 定期テスト - レポート - ハンドノート - ワークシート - 確認テスト - 製作品 - 観察
12~3	「情報の技術」 - 生活や社会と情報の技術 - コンピュータとプログラミング - 計測・制御のプログラミングによる問題解決	思考・判断・表現	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	- 定期テスト - レポート - ハンドノート - ワークシート - 確認テスト - 製作品 - 観察
		主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。	- 定期テスト - レポート - ハンドノート - ワークシート - 確認テスト - 製作品 - 観察

技術・家庭〔家庭分野〕【第1学年】

1 技術・家庭〔家庭分野〕の学習で目指すこと（到達目標）

- ・生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- ・生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。
- ・よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「技術・家庭〔家庭分野〕」（開隆堂）	持ち物等	・教科書 ・ファイル ・ワークノート ・裁縫道具・三角巾 ・エプロン
学習の進め方	・課題の把握（自ら課題を発見する） ・説明（教科書やノートを使用し、使用方法やはたらきを理解する） ・取組（ペア活動、グループ活動） ・まとめ（自己評価、学級評価を行う）		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4 月	・家庭科分野ガイダンス わたしたちと家族・家庭と地域	知識・技能	家族・家庭の基本的な機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	・観察 ・プリント ・製作物 ・レポート ・単元テスト ・実技テスト
5 月	・家庭のはたらき ・家庭生活を支える仕事 ・わたしたちの家庭生活と地域 生活を豊かにする物をつくる ・生活に役立つ物作り （はし袋）（エコバック） ＜環境に配慮した衣生活＞ ・環境に配慮した衣生活			
6 月	中学生に必要な栄養と量 ・食事の役割と食習慣 ・栄養素のはたらき ・6つの基礎食品群	思考・判断・表現	これからの生活を展望し、家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	
7 月	自分らしく着る・快適に着る ＜日常着の活用＞ ・衣服のはたらき ・自分らしく目的に合わせた着方 ・和服の文化 ・衣服の活用と選び方 ＜日常着の手入れ＞ ・汚れと手入れ、表示 ・生地組成表示調べ ・衣服の洗濯 ・衣服の補修とアイロンかけ			
9 月		主体的に学習に取り組む態度	家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。	
10 月				

外国語（英語）【第1学年】

1 外国語（英語）の学習で目指すこと（到達目標）

既習事項を運用し、聞き手や読み手を意識して自分の思いや考えを即興で語ったり書いたりする力を身に付ける。

2 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 ・SUNSHINE ENGLISH COURSE1（開隆堂） ○副教材 ・Joyful Work Book①	持ち物等	○教科書 ○ノート ○Joyful Work Book① ○ファイル
学習の進め方	○単語力を高める。 「見る」「読む」「書く」等を繰り返す。 ノートに書いて満足しないように。 ○文法を理解する。 「授業で理解する」→「重要表現の例文を1つ覚える」→「問題を解く」→「間違いを見直す」 ○読解力と聞き取る力を高める。 「読む（意味がわかる）」→「できる限り速く読む」日本語で考えずとも理解できるようになるまで。 ○表現力（話す力・書く力）を高める。 「SVを意識し、学んだ単語や文法を用いて話す・書く」回数を増やす。 自分だけでは適切な英文か確認できないので、先生に確認する。 授業でも家庭学習でも英語をなるべく多く使用する。 ☆その他 教科書の本文を音読・暗唱・筆写する。ワークに繰り返し取り組む。英語の歌を歌う。 ※「読める（意味がわかる）」→「すらすらと読める」→「問題を解く」「書く」の順番		

3 授業計画、評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
4月	・Get ready①～⑥	知識・技能	外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を理解しているか。	・定期テスト ・観察 ・実技テスト ・レポート
5月	・Program 1		また、その知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けているか。	
6月	・Program 2	思考・判断・表現	目的、場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるか。	・定期テスト ・観察 ・実技テスト ・レポート
7月	・Program 3		また、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合えるか。	
9月	・Our project 1〈スピーチ〉 「あなたの知らない私」			
10月	・Power-Up 1			
11月	・Program 4	主体的に学習に取り組む態度	外国語に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしているか。	・定期テスト ・観察 ・実技テスト ・レポート
12月	・Program 5		また、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか。	
1月	・Program 6			
2月	・Power-Up 2			
3月	・Program 7			
4月	・Power-Up 3			
5月	・Our project 2〈スピーチ〉 「この人を知っていますか」			
6月	・Power-Up 4			
7月	・Program 8			
8月	・Program 9			
9月	・Power-Up 5			
10月	・Program 10			
11月	・Our project 3〈スピーチ〉 「私が選んだ1枚」			
12月	・Power-Up 6			
1月	・1年間のまとめ			

特別な教科 道徳【全学年】

1. 特別な教科 道徳とは

道徳教育は、児童生徒が人間としての在り方を自覚し、人生をよりよく生きるために、その基盤となる道徳性を育成しようとするものである。

「道徳」の時間（年間 35 単位時間）を要として、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動のそれぞれの特質に応じて、学校の教育活動全体を通じて行う。

「特別の教科 道徳」は、日常生活において様々な場面でどのように行動すればよいのか、どのように対応すればよいのかに関心を向けつつ、どうしてそのことが必要なのか、どうしてそのようなことが起こるのかについて深く考え、その視点から自らを見つめ、課題を見出し追究していこうとする心を育てることが中心となる。

2. 授業に関する注意事項

使用教材	○教科書 「中学生の道徳 明日への扉」(学研) ○埼玉県道徳教育教材資料集 「彩の国 道徳」(埼玉県教育委員会)
持ち物等	○教科書 ○ファイル

3. 道徳科で学ぶ「22の道徳的価値」

道徳教育の目標を達成するために学ぶ「22の道徳的価値」は“4つの視点”に分類整理されている。

＜目標＞

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

↑	↑	↑	↑
A 主として自分自身に関すること	B 主として人との関わりに関すること	C 主として集団や社会との関わりに関すること	D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること
・善悪の判断、自律 ・正直、誠実 ・節度、節制 ・個人の伸長 など	・親切、思いやり ・感謝 ・礼儀 ・友情、信頼 など	・規則の尊重 ・公正、公平 ・よりよい学校生活 ・国際理解、国際親善 など	・生命の尊さ ・自然愛護 ・感動、畏敬の念 ・よりよく生きる喜び など

4. 評価について

授業における学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価する。また、1つ1つの内容項目ごとに、どれくらい理解したかということの評価するものではなく、道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるようになったか、道徳的価値を自分自身との関わりで深めようとしていたか、といったことを年間や学期など一定のまとまり（本校では学期ごと）の中で評価する。ただし、数値などによる評価は行わない。

総合的な学習の時間【全学年】

1 学習で目指すこと（到達目標）

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けることを目指している。

2 授業に関する注意事項

使用教材	教科書がないのが「総合的な学習の時間」の特色である。学年ごとに必要なものを事前に準備する。	持ち物等	○ファイル ○担当の先生が指示したもの
学習の進め方	学習の進め方は様々だが、基本的には課題を立てるところから学習がスタートする。自ら課題を設定し、主体的に解決していくという課題解決型の学習が行われる。 課題解決までの手順としては、次のように進められる。 ①必要な情報を収集し、蓄積する。 ②蓄積した情報を整理、分析する。 ③考察を加えたり、自分なりの考えをまとめたりする。 ④調べたことや考えたことを仲間と伝え合う。 また、スキー教室、校外学習、修学旅行などの行事の事前学習や事後のまとめなどを行うのも総合的な学習の時間である。仲間と共に協働的に取り組むことが大切である。		

3 授業計画及び評価の観点及び評価方法

月	学習活動	評価規準		評価方法
1年間を通して学習する	第1学年【50時間】 テーマ「将来を見据えて考える」 ①郷土の学習 ②環境をテーマにした学習 ③スキー体験教室を生かした学習 ④キャリア教育（働く人に学ぶ）	知識・技能	課題の解決に必要な知識や技能を身に付けているかどうかで評価する。どんなことを身に付けたかということが通知表に文章で記述される。	・授業の様子の観察 ・作品の出来や発表の内容
	第2学年【70時間】 テーマ「すべての人を幸せにするために私たちができること」 ①福祉をテーマにした学習 ②キャリア教育（職場体験学習） ③校外学習を生かした学習 ④修学旅行に向けた学習	思考・判断・表現	自分で課題を立て、どのように解決したかで評価する。身に付けた知識や技能をどのように使ったかということが通知表に文章で記述される。	・授業の様子の観察 ・作品の出来や発表の内容
	第3学年【70時間】 テーマ「より良い世界のために私たちができること」 ①修学旅行を生かした学習 ②キャリア教育（進路選択に向けて） ③国際理解やSDGsをテーマにした学習 ④卒業に向けた学習	主体的に学習に取り組む態度	主体的に学習に取り組むと共に、仲間と協力しながら学習できたかで評価する。どう周りに関わり、どう自分に生かしたかということが通知表に文章で記述される。	・授業の様子の観察 ・授業の振り返りや自己評価 ・クラスの仲間からの評価